

第2学年 算 数

第2学年の学習到達目標

- (1) 具体物を用いた活動などを通して、数についての感覚を豊かにする。数の意味や表し方についての理解を深めるとともに、加法及び減法についての理解を深め、用いることができるようにする。また、乗法の意味について理解し、その計算の仕方を考え、用いることができるようにする。
- (2) 具体物を用いた活動などを通して、長さや体積の単位と測定について理解できるようにし、量の大きさについての感覚を豊かにする。
- (3) 具体物を用いた活動などを通して、三角形や四角形などの図形についての感覚を豊かにする。

第2学年の主な学習内容

学期	単元名	学習のねらい	学習内容
前期	ひょうとグラフ	●簡単なことがらについて分類整理し、表やグラフの形に表すことができる。	○簡単な一次元表、グラフの読み方、かき方
	時刻と時間	●時刻と時間の概念、日、時、分の単位や関係について理解し、日常生活に用いることができるようにする。	○時刻と時間の観念、区別 ○1時間=60分、1日=24時間の単位関係
	たし算のひっ算	●2位数の加法の筆算の仕方について理解し、確実にできるようにする。	○2位数と1～2位数のたし算 ○たし算の筆算
	ひき算のひっ算	●2位数の減法の筆算の仕方について理解し、確実にできるようにする。	○2位数から1～2位数をひくひき算 ○ひき算の筆算 ○たし算とひき算の関係
	長さのたんい	●長さの単位の意味と測定の原理を理解し、長さの測定ができる。	○長さをはかる単位の必要性、有用性 ○物差しが目盛りの読み方、使い方 ○長さの単位と、1cm=10mmの単位関係
	3けたの数	●1000までの数について、意味や表し方を理解し、数の概念について理解を深める。	○1000までの数の読み方、書き方 ○3位数の位取りの原理、数の構成 ○大小、相等を表す記号の使い方
	水のかさのたんい	●小数の意味や表し方を理解する。 ●小数のたし算・ひき算ができる。	○体積をはかる普偏単位の必要性、有用性 ○体積の単位と単位関係
	計算のくふう	●加法の結合法則、簡単な加減の暗算の仕方を理解することを通して、計算の理解を深める。	○加法の結合法則、()の使い方 ○簡単な加減の暗算の仕方
	たし算とひき算のひっ算	●(2位数)+(1～2位数)=(3位数)の計算、(3位数)-(1～2位数)=(2位数)の計算が確実にできるようにする。	○(2位数)+(1～2位数)=(3位数)の計算 ○(3位数)-(1～2位数)=(2位数)の
	三角形と四角形	●平面図形に親しみ、図形の感覚を豊かにし、三角形や四角形などの構成要素の意味や性質を理解する。	○三角形、四角形の概念と用語 ○長方形、正方形の概念、性質、かき方 ○直角三角形の概念、性質、かき方
	分数	●分数の意味や表し方を理解する。	○具体物を用いて $1/2$ や $1/4$ などの大きさを作ること ○ $1/2$ や $1/4$ などの数を分数と呼ぶこと
	かけ算(1)	●かけ算の意味を理解し、2, 3, 4, 5の段の九九の唱え方を知り、それを使うことができる。	○乗法の意味 ○5の段、2の段の九九の構成 ○3の段、4の段の九九の構成

後期	かけ算(2)	●かけ算の意味を理解し、6、7、8、9、1の段の九九の唱え方を知り、それを使うことができる。	○6の段、7の段の九九の構成 ○8の段、9の段、1の段の九九の構成 ○倍概念の基礎
	4けたの数	●10000までの数について、意味や表し方を理解し、数の概念について理解を深める。	○10000までの数の読み方、書き方 ○4位数の位取りの原理、数の構成 ○数の系列、順列、大小、多面的な見方
	長いものの長さのたんい	●長さの単位について知る。 ●物差しや紙テープなどで長いものを測る。	○長さの単位「メートル」 ○1m=100cmの単位関係
	たし算とひき算	●たし算やひき算の相互関係を使って逆思考の問題を解くことができる。	○減法逆の加法、加法逆の減法の問題解決 ○加法と減法の相互関係
	はこの形	●はこの形は、辺が12本、頂点が8つ、面が6つあることを理解し、その関係について考える。	○箱の形を基にした立体と平面の関係 ○立体図形(立方体、直方体)の構成要素としての頂点、辺、面の特徴
	2年のふくしゅう	●既習した主な内容について、確実に理解し、的確に能率よく用いることができる。	○2学年の学習内容の総復習

評価の観点・方法

<p>(1) 評価の観点 【算数への関心・意欲・態度】 知識や技能の有用さ及び数量や図形の性質や関係を調べたり、筋道を立てて考えたりすることのよさに気づき、進んで生活に生かそうとする。 【数学的な考え方】 算数的活動を通して、数学的な考え方の基礎を身につけ、事象について見通しを持ち、筋道を立てて考える。 【数量や図形についての技能】 整数や小数の計算が確実にでき、図形の面積を求めたり、図形を作図したり、数量の関係などを表したり調べたりする。 【数量や図形についての知識・理解】 数量や図形についての感覚を豊かにするとともに、小数や分数の意味と表し方、面積の意味、基本的な図形の意味及び数量の関係の表し方や調べ方を理解している。</p>	<p>(2) 評価の方法 ① 知識・理解・技能だけでなく、児童の学習意欲や思考力・判断力・表現力などの観点も大切にしていきます。 ② ペーパーテストだけでなく、日常の学習の様子、発表、課題への取り組み状況、ノートなど、様々な方法により多面的に評価します。 ③ 学習途中に現れる児童の思いや願いやその都度評価し、指導に生かします。 ④ 児童自らが、自分自身の学習の仕方や理解の程度などを、自己評価や相互評価したものも参考にします。</p>
--	---

特色ある学習方法

<p>(1) 基礎・基本の定着 ① 前学年までの内容も継続して指導し、理解と定着を図るようにします。 ② 計算や測定などの基礎的スキルについては、その習熟や維持を図るため反復練習をします。</p> <p>(2) 算数的活動を積極的に取り入れる。 数量や図形についての意味を理解し、論理的な思考力や直感力、問題解決能力を育てるために、生活との関連を考慮しながら、作業的・体験的活動ができる場面を設定するよう工夫します。また、ゲームなどの要素を取り入れ、楽しく練習ができるような場を設定していきます。</p> <p>(3) 学習形態の工夫 一人一人の学習状況を把握し、きめ細かい指導をしたり、自分に合った課題を選択して学習に取り組んだりできるように、学習形態の工夫を図ります。</p>
--

使用教材等

○ 教科書「新しい算数 2年」(東京書籍)

○ 計算ドリル

留意事項

(1)ノートについて

ノートは、自分が何を考え、どうやって解決に行き着いたのか記録する大切なものです。工夫したノート作りに取り組みます。

(2)家庭学習・用具の準備を大切に

毎時間の復習は、確かな理解につながります。学習した内容の定着を図るため、計算ドリルやプリントなどの課題を出します。自分の間違いに気づき、その原因を明らかにした上で確実に直していくなど、間違いから学ぶ姿勢も大切です。また、ものさしなどの用具をきちんと用意し、必要なときはいつでも使えるようにしておくことが必要です。

(3)興味・関心を高めるために

算数で学習したことが、生活の中で直面した問題の解決に生かされることにより、算数のよさを実感することができます。時刻や時間、長さなど、日常の事象を数理的にとらえたり、身近な事柄の中に含まれる数量・図形等の要素や数学的な考えに着目したりできるよう、ご協力をお願いします。